



玉川上水を次代へ 自然・生物シンポ

22日 小金井で

玉川上水の自然や生物多様性を守る活動に取り組む近隣住民らの「小金井玉川上水の自然を守る会」が22日、小金井市市民会館（萌え木ホール、同市前原町3丁目）でシンポジウム「玉川上水と生物多様性」を開く。「玉川上水の貴重な自然を次世代に残したい」と参加を呼びかけている。

玉川上水は江戸時代、江戸市中に水を供給するために設けられた約43^{キロ}の水路。現在の羽村市で多摩川から取水し、小金井市や杉並区などを經由して新宿区の四谷大木戸に至る。2003年には下流の暗渠を除く約30^{キロ}が国の史跡に指定された。都市部に残る貴重な「水と緑の空間」として市民に親しまれている。

小金井市などでは、江戸時代に約6^{キロ}にヤマザクラが植えられた。これが1924年に国の名勝にも指定された「小金井桜」の起源とされる。最盛期には1400本ほどあったが、手入れ不足などから現在は800本台に減少。再生を目指す市などはヤマザクラを植えたり、生育を妨げる雑木を伐採したりしている。

一方で、同会によると、伐採の影響で下草が茂り、外来植物も目立つようになっている。同会の仲洋子さん(61)は「小金井桜の復活は大切。ただ、ほかの植物や生き物なども共存できるようにしたい」と話す。

シンポには、小泉武栄・東京学芸大学名誉教授ら専門家3人を招き、玉川上水の生物多様性などについて話してもらおう。午後2時～同4時半。事前申し込み不要。資料代300円。問い合わせは仲さん(080・1148・0428)へ。(河井健)